

各協同組合からのお知らせ
MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

みんなの力で CO₂ 削減！

～家族で「1日エコライフ」に取り組みました～

みやぎ生協では職員・メンバーに呼びかけて、6～7月の任意の1日を「エコライフデー」として10項目のエコライフ項目に取り組みました。

10項目とは……

- ①買い物袋を持って行き、レジ袋をもらいません
(CO₂-42 g)
- ②産直品や県産品を利用します (CO₂-185 g)
- ③エコラベルや省包装の商品をえらびます
(CO₂-142 g)
- ④リサイクルに協力します (CO₂-115 g)
- ⑤車をなるべく使わないようにします
(CO₂-400 g)
- ⑥だれもいない部屋のあかりは消します
(CO₂-25 g)

- ⑦見ていないテレビは消します (CO₂-45 g)
- ⑧冷房の温度設定は 28℃を目安にします
(CO₂-111 g)

- ⑨水を流しっぱなしにしません (CO₂-16 g)
- ⑩あなたなりの目標を考えましょう

この取り組みは 5,715 人の参加があり、合計 4.2 トンの CO₂ を削減できたこととなります (9/19 現在)。1 日だけの取り組みでしたが、参加した方は、これらのエコ項目を毎日当たり前に行わなければいけないという自覚を持ったことと思います。



MELON20 周年をめざせ！

50 人リレートーク



第 23 回目の執筆者

浅沼栄二さん

(株式会社一ノ蔵

一ノ蔵農社参事)

環境保全型農業と田んぼの生き物に感動

田んぼの生き物面白いですね。ヤゴがトンボに羽化する瞬間見たことありますか。アメンボの泳ぎ方、オタマジャクシから蛙へ、仮面ライダーのイナゴ、赤とんぼの乱舞などなど。環境保全型農法の一ノ蔵の田んぼには生き物がいっぱい。水田を取り巻く様々な生き物の生態系の健全化は稲作にとっても人間にとっても必要です。

一ノ蔵の酒造り現場では、以前より有機栽培のお米でお酒を造ると“麴”や“もろみ”の段階で香りや^{ぼうじょう}貌状※にすばらしい結果が生じることを体験。この頃は、使用する殆どのお酒米は農薬や化学肥料に頼る慣行栽培が主流でした。

※貌状(ぼうじょう)…お酒の醗酵している様子を人間に例えて、顔や表情のことを製造現場で貌状と言う。

平成 5 年の大凶作を体験し、高品質の酒米の安定確保の必要性を痛感。また会社全体で環境問題に取り組みながら、平成 16 年“国際こめ年”に農業特区で酒米栽培に着手。イベントではゴミを出さない工夫や、マイ箸運動、毎月の県道清掃など環境に配慮した取り組みを積極的に行ってきました。

地域では行政も含め「松山町酒米研究会」を発足させ、契約による良質で安定した酒米確保や奨励金での農家支援を行っております。栽培方法は NPO 法人環境保全米 NW (県内唯一の民間有機認定機関) などの指導を受け、田の草は除草剤に頼らず社員研修と称し“人間合鴨”。稲作作業とおして、自然界では動植物が共生しながら棲み分けしている仕組みに不思議さを超えて感動を覚えます。成長する生き物を観察すると環境保全型の農法的重要性を感じさせられます。

…次号執筆者…

二宮景喜さん

(東北学院大学非常勤講師、

NPO 法人シナイモツゴ郷の会理事)

